

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

今月の読み物

- 2面 いま世界は！ 5
- 3面 「慰安婦」報道に関して
- 4面～5面 理事会、常任理事会開催
- 6面 「知りたかったアセアン」
- 7面 列島AALA
- 8面 私とAALA

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会機関紙

2014年10月1日 No.651

**日本AALA
理事会決議**

憲法改悪・原発再稼働ゆるさず 東アジアを不戦・平和、協力の地域に



記事は4、5頁

沖縄

新基地NO!

次は翁長知事実現へ全力を



名護市議選で、新基地反対の候補者が過半数を制したこと、日本共産党の仲里候補がトップ当選したことを報じる「琉球新報」

9月7日の名護市議選挙では、辺野古への新基地建設反対をつらぬく稲嶺市長を支持する14人が当選し、市政与党が過半数を維持しました。名護市では、2010年の市長選挙、同年の市議選挙、2014年1月の市長選挙につき4回目の新基地建設反対の世論が示されました。

次は11月16日投票の沖縄県知事選挙です。9月10日には、新基地建設反対を掲げる那覇市の翁長雄志市長が立候補を表明しました。翁長県政を実現し、辺野古への新基地建設の策動と安倍政権の暴走に鉄槌をくだしましょう。

いま世界は！5

イスラエル・パレスチナ紛争



右から、菅原さん、平井さん、司会の河内常任理事

日本 AALA の学術研究委員会は、9月6日、講師に平井文子獨協大学兼任講師、コメンテーターに菅原啓日本共産党国際委員会委員を招き、イスラエル・パレスチナ問題の学習会を開催しました。平井先生に講演の要約をお願いしました。

なぜ、イスラエルによる ガザでの虐殺がつづくのか

するようになった。ガザはイスラエルによって封鎖され、天井のない収容所と化した。

イスラエルは武力抵抗をつづける

ハマスを目の仇にし、2008年以來3回も大規模な空爆をおこなってきた。

イスラエルの攻撃の背景に ブッシュなどの対テロ戦争戦略が

ふり返ってみれば、イスラエルによる攻撃の標的は歴史的に変化してきた。当初、パレスチナ人が自らを代表する機関を持たない時代には、エジプト、ヨルダン、シリアなどの近隣アラブ諸国がイスラエルの敵であったが、第4次中東戦争後、シナイ半島返還と交換にイスラエルとエジプトが和平を結ぶと、イスラエルの敵は事実上パレスチナ解放機構（PLO）のみとなり、イスラエル・アラブ紛争という構図からイスラエル・パレスチナ紛争という構図に変化した。イスラエルはPLOつぶしに専念できた（82年レバノン戦争）。

その後、占領地住民によるインティファダ（反占領闘争）でPLOは息を吹き返し、90年代には、アメリカ主導の中東和平プロセス＝オスロ合意に基づく和平交

渉の当事者にまでなった。しかし両者は、占領地返還交渉、エルサレム帰属問題、難民帰還問題において最終合意に達することができず、和平プロセスは頓挫した。2000年代前半は戦闘モード一色に変化した。イスラエルは分離壁設置と高性能な兵器を利用した反テロ作戦とを展開し、パレスチナ側は自爆テロという悲劇的戦術を多用した。こうした暴力の拡大の背景には、米のブッシュとネオコンの主導する対テロ戦争戦略（2003年イラク戦争）があったといえる。

イスラエルの集団的心理構造

最近の世論調査によれば、ガザ空爆は多くのイスラエル国民に支持され、ハマスを壊滅を口にする人もいるようだ。それはなぜか。まず、イスラエルでは占領という国際法違反の異常な状態が47年間もつづいているうちに、占領（パレスチナ人の民族権・人権の蹂躪）という既成事実が常態となっているだけでなく、政府による「ホロコースト」の象徴的教訓と「犠牲者意識」刷り込みのために、ハマスのロケット攻撃によるユダヤ人の犠牲者出現をナチスのホロコースト再来と考える集団的心理構造ができ上がっているからだと考えられる。

天井のない収容所と化したガザ

7月8日以来50日間もつづいたガザ戦争はやっと停戦に漕ぎつけたが、イスラエル軍の空爆でパレスチナ側には2150人以上の死者、1万人以上の負傷者が、他方ハマスによるロケット弾攻撃でイスラエル側には50人の死者が出た。両者の軍事力の違いから、犠牲者の人数と破壊の規模はまったく比べものにならない。

ガザ地区は人口180万人、面積360km²（東京23区の約6割）の小さくて人口周密な地区。ガザは1967年第3次中東戦争でヨルダン川西岸とともにイスラエル占領下に置かれ、1994年以後はオスロ合意に基づく中東和平プロセスのなかでパレスチナ自治区の一部となった。ところが、2006年の自治区選挙でイスラーム主義政党ハマスが勝利したあと、それまでの自治政府与党ファタハ（非宗教的）との間で指導権争いが起こった結果、西岸をファタハが、ガザ地区をハマスが実効支配

「慰安婦」報道に関する 「朝日新聞」バッシングは 日本をどこに導くか

「朝日新聞」は、旧日本軍「慰安婦」問題の「吉田証言」を偽証だと判断し謝罪しました。これをもって「河野談話」の見直しなどの言動が活発になっています。この問題について、「慰安婦」問題とジェンダー平等ゼミナル代表の吉川春子さん（元参議院議員）に寄稿していただきました。



吉川春子さん

「朝日新聞」の8月5日、6日付け朝刊は、自社の報道を検証する「慰安婦問題を考える」の特集を掲載し、いま右翼メディアの批判にさらされています。連載中の池上彰氏の原稿を掲載拒否するなどの迷走もみられますが、以下3点に絞って述べます。

「河野談話」の「慰安婦」が強制連行されたとの主張は崩れない

「朝日新聞」は、山口県労務報告会下関支部で動員部長・吉田清治氏の「済州島で慰安婦にするため女性を強制連行した」との証言は虚偽だと判断し、記事を取り消しました。これに対し「82年から掲載の記事を32年後やっ取り消した」ときびしい批判を浴びています。そのとおりでと思います。しかし、この記事によって「河野談話」の「慰安婦」が強制連行されたとの主張の根幹は崩れたという主張（「産経新聞」8月6日など）は見当外れです。今年の「ナ

ムムの家」のハルモニの証言を聞けばこのことはすぐわかります。しかし、「河野談話」見直し要求への大合唱（「読売新聞」8月27日社説など）になっています。

しかも「強制連行」否定論者は軍・政府が設置管理した「慰安所」で女性を性奴隷として扱った事実には目を塞ぎ、連行の形態のみを問題としており、国際社会の批判を浴びています。

「慰安婦」と「挺身隊」との混同

「朝日新聞」は次のように述べています。「政府は1944年『女子挺身勤労令』を発し朝鮮では国民学校や高等女学校の生徒ら4000人が軍需工場に動員した。ただし『慰安婦』とは別物。しかし、当時は研究が進んでおらず（中略）慰安婦と挺身隊の混同が見られたことから誤用した」。

私も、「挺身隊」の名で「慰安婦」にさせられたという証言を聞いています。韓国では一般的に「挺身隊」とは日本軍「慰安婦」のことだと受け止められてきました。韓国挺身隊問題対策協議会（挺対協）は「慰安婦」問題解決のため精力的に活動してきました。

元「慰安婦」はじめての証言

「朝日新聞」は次のように述べています。「91年8月名乗り出た、金学順さんの証言を真っ先に報道したがその記者が義母から情報提供を受けて事実を捻じ曲げた事実はない」。

金学順さんは挺対協に「慰安婦」だったと名乗り出たあと、12月にほかの犠牲者とともに、太平洋戦争犠牲者遺族会として日本政府を提訴しました。金学順さんの証言が日本軍「慰安婦」問題を国際的に知らしめ、彼女の勇気が人権思想を前進させました。右翼メディアは、彼女がキーセンであった経歴を意図的に隠し「女子挺身隊の名で戦場に連行」された慰安婦だという虚像をつくり上げたと批判しています。（「読売新聞」9月5日）。この批判の背後には「キーセン」ならば「慰安婦」にされてもかまわないという日本の右翼的メディアの恐るべき女性蔑視の考えがあります。

右翼メディアの狙いは「河野談話」の見直し

「朝日新聞」の報道により日本は性奴隷の国とされ、国際社会の日本の評価を失墜させ、日韓関係が悪化したとの「朝日新聞」批判が渦を巻いています。右翼の狙いは「河野談話」の見直しです。自民党もこれに乗り、同党政務調査会は菅官房長官へ「河野談話」の見直しを申し入れました。一連の報道で「慰安問題が分からなくなった」などの声も聞きます。しかし冷静に読むと的外れな「朝日新聞」バッシングが多い。七十余年前、マスコミが戦争協力に一役買い国民を悲劇の底に突き落としました。

報道機関が国民に事実を伝えるように監視する活動がますます重要になっています。

日本 AALA の存在意義発揮のとき

国際シンポジウム 国際署名などのとりくみを 満場一致で採択



常任理事会と理事会を開催

方針部分についての発言者と発言の趣旨

山本富士夫 福井における原発再稼働反対の闘いと署名の訴え。若い活動家育成の大切さ。

高林敏之 日本は米国に従属しているだけでなく、積極的に軍拡に乗り出している。

山本 翠 沖縄県の高江や名護の闘いの紹介。ぜひ、沖縄の実態を見てほしい。

高島悦子 「標的の村」の紹介と1人でも多くの方に見てほしい。

松井幸博 横田基地の実態と撤去を要求する座り込みなどについて。

河内研一 国際署名にわくわくするような感じを抱く。海外にもひろげましょう。

太田宣也 日中関係が厳しい時ほど、学習の強化と会員を増やす努力

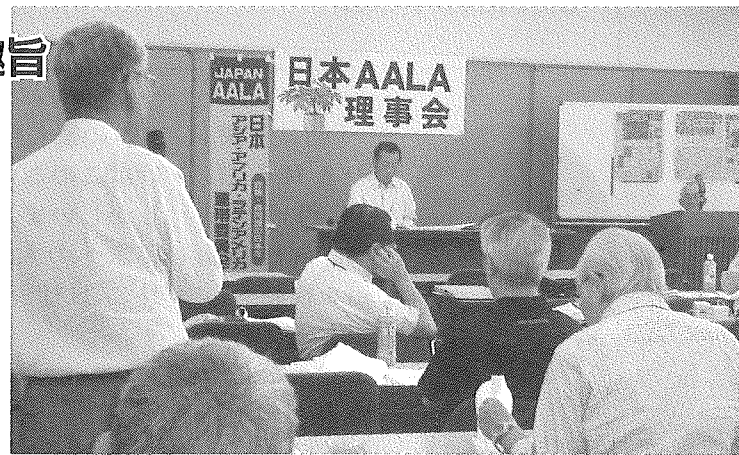
が大切。

吉田信夫 旧日本軍「慰安婦」問題の提案はさらに前進。「戦争する国」阻止めざしががんばろう。

小林立雄 是非、福島原発などの被災地を見てほしい。核兵器と原発はコインの裏表とらえて運動を。

田中靖宏 軍事力から話し合いへと、地殻変動が起きている。「戦争するな」の運動に期待。

佐藤龍雄 埼玉での多様な運動の紹介。700人の会員めざし、対象者の紹介運動も。



有吉節子 国際署名は、AALAの運動が目に見える。世界を動かす大きなとりくみにする。

石山久男 来年は中学校の教科書採択の年。侵略の事実を書いただけで排除。がんばろう。

澤田 有 規約を読めば AALA がわかるように綱領的内容を入れた規約の改定をしよう。

平和を愛するみなさんへの訴え

東アジアに平和の共同体創設めざし ともに手を携えましょう

21世紀の世界は、軍事同盟の意味が大きく後退し、紛争を武力に訴えず、話し合いで解決し、平和な社会を構築し、すべての人の尊厳が大切にされる新しい時代を実現するという課題が、現実のものとなっています。

それに対し安倍内閣は、「積極的平和主義」と称して集団的自衛権行使容認の「閣議決定」や名護市辺野古への新基地建設強行など日米軍事同盟の強化を策しています。また、原発再稼働や輸出、消費税増税や社会保障改悪、労働法制の改悪など、安倍内閣の暴走はとどまるところを知りません。安倍首相は、外交政策でも、隣国の中国、韓国との信頼関係の回復に努めるどころか、これらの国々と対決しようとする稚拙な外交を展開しています。

私たちは、このような歴史に逆行する反動政策に断固反対し、憲法を守り、活かし、平和とくらしの擁護のために運動を進めます。同時に、非核・非同盟運動や ASEAN などの平和の共同体を学び広げるために「全国縦断学習講演会」を全国でおこないます。そのうえで、私たちは、戦争や核兵器がなく、国々が互いに協力しあい、平和で安全、豊かなく

日本 AALA は、8月29日に第2回常任理事会を、8月30日に第2回理事会を開催しました。大会に次ぐ決議機関である理事会は、第51回大会後のおもなとりくみなどの報告について承認したあと、①2013年4月～14年3月までの決算報告、14年度の予算の組み替え案②第52回大会までの運動の具体化③創立60周年第52回大会と記念の企画④東アジアの平和の共同体創設めざし、国際署名やシンポジウムの成功への訴えなどを論議しました。

別項にありますように積極的な発言がつづき、①～③は満場一致採択されました。最後に④の訴えを力強い拍手で確認し、団結ガンバロウで閉会しました。②と③の概要は、9月号に掲載しましたのでご覧ください。

す。
2、2015年5月24日に、「東アジアの平和の共同体」実現の展望と運動を話し合う「国際シンポジウム」を国連大学で開催します。

平和を愛するみなさん。私たちは、この日本 AALA が提唱しているとりくみは、国の内外の皆さんとの共通の願いでもあると確信しています。戦争や核兵器がなく、平和な社会で、国々が互いに協力しあい、安全で、豊かなくらしを共有する「東アジアの平和と繁栄の共同体」を、すべての人々が享受できるように、ともに手を携えて奮闘しようではありませんか。



国際署名の内容

緊急であり 国際的に積み上げがある課題

国際署名の内容(趣旨)は右の3点です。緊急で、しかも ASEAN の宣言や ASEAN 関連の会議、アジアのいくつかの国の首脳などが提唱するなど、一定の国際的な動きや積み上げのある課題です。これを英語や中国語、韓国語、ロシアなどにも翻訳し、国際的な運動にします。

署名 戦争するな「東アジアを不戦・平和、協力の地域に」

- 1、紛争を話し合いで解決し絶対に戦争を引き起こさないために、東アジア諸国が守るべき平和の規範(ルール)を作成する
- 2、災害、感染症、環境問題など切実で緊急を要する共通の課題での相互に協力・援助する国際機関を立ち上げ、その活動を通して信頼醸成に努力する
- 3、東南アジア友好協力条約(TAC)を参考にして、東アジア諸国を律する「東アジア友好協力条約」の制定をめざす

*提出先は、当面、来年夏に予定されている東アジア首脳会議や安倍首相など各国首脳。

本の紹介

「ネルー」 中村平治 著

清水書院
定価 1,000円+税
問い合わせ
03-3330-5102 中村平治

今年はインドのネルー没後50周年です。日本 AALA の理事で東京外語大名誉教授の中村平治先生が、1966年に書かれた「ネルー」が再刊されました。「ネルーを鏡にして現代インドの課題に所在をつきとめる」(著者)という意欲的な本です。ご紹介します。
小松崎栄(日本 AALA 代表理事)

学習と
普及を

「知りたかったアセアン—平和の共同体を求めて」 —ASEANの歴史や現状、第一線で活躍する人たちとの会見記録—

本書は、東南アジア諸国連合（ASEAN）の歩みや現状を豊富な資料で解明しています。同時に、6月に日本 AALA の訪問団がインドネシアとミャンマーを訪問し、ASEAN の第一線で活躍している方々と会見をしましたが、その会見記録を詳細に掲載しています。

ASEAN に関する本はたくさん出ていますが、解説や説明だけでなく「平和の共同体」を求める運動の視点から総合的に書かれた本は、この本がはじめてでしょう。ぜひ、購読して学習会に活用するとともに、普及をお願いします。

◇第一部

ASEAN10 力国の紹介（政治、経済、国防、社会指標、人権、核問題など）と ASEAN の 重層的な平和の枠組み、政策決定機関などの図解

◇第二部

ASEAN 訪問団の詳細な会見記録

- ・ASEAN 事務局政治安全保障局ケオ・チェア第一課長
- ・インドネシア副大統領アンワル補佐官
- ・ミャンマー外務省リン ASEAN 局長ほか

◇第三部

ASEAN の節目、節目の重要な宣言、条約の紹介

知りたかった アセアン

—平和の共同体を求めて—



- 定価 800円+税
- 発売 10月10日より
- お問い合わせは、
日本 AALA 本部まで

全国縦断学習講演会 スタートします

全国縦断学習講演会が、北信越ブロックからスタートします。
力を合わせて会員拡大と結合して成功させましょう。

トップを切って北信越ブロックが10月25日に長野市で開催

- ◆日時 10月25日(土) 13:15～17:00
- ◆場所 長野市生涯学習センター 4階 大学習室
- ◆定員 150人
- ◆内容と講師
 <中南米・カリブ共同体 (CELAC) の現状と展望>
 マルコス・ロドリゲス キューバ共和国特命全権大使
 <東南アジア諸国連合と日本の進むべき道>
 新藤通弘 日本 AALA 常任理事・国際委員会責任者
 *新藤氏にはキューバ大使の通訳もお願いしています。
- ◆参加費 1,000円



講演するロドリゲス氏(2014年4月都内で)

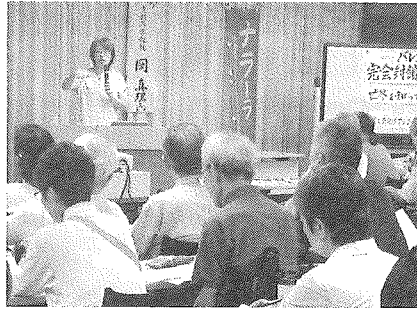


奈良

パレスチナ問題講演会

9月6日に京都大学教授の岡真理先生(専門は現代アラビア文学・パレスチナ問題)をお招きして講演会をおこないました。

内容は「パレスチナを知ろう! 繰り返されるジェノサイド 封鎖・占領・植民地主義~完全封鎖下のガザを訪ねて~」。朝日新聞、毎日新聞、奈良新聞などが企画案内を掲載してくれたこともあり、100人の参加で会場が満席になりました。そのうち8割が非会員



で、非常に盛り上がった講演会となり、入会者もありました。

岡先生は今年3月にガザを訪ねているので、現地の映像をまじえての迫力あるお話は、目からウロコだったという人がかなりありました。

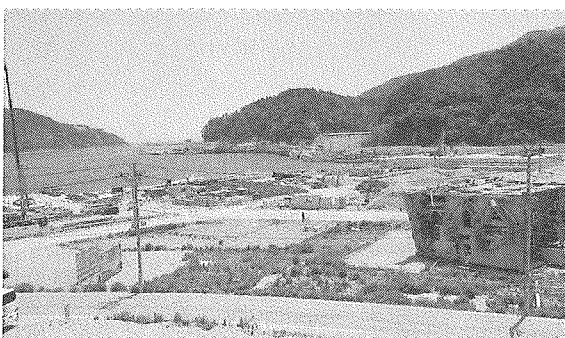
次の企画は、埼玉AALAの鯨井洪画家が描かれた「慰安婦100枚のデッサン展」です。民主書店を1日借り切ってデッサンを展示します。若い人を含めてできるだけたくさんの方に観ていただき、「慰安婦問題とはなにか」を考えるきっかけにしたいと考えています。せっかくお借りするので、ほ

宮城

**「被災地訪問ツアー」を
してください**

宮城県では東日本大震災の被災地訪問ツアーの受け入れ・現地案内をしています。

私たちが生きているこの時代に天変地異を経験しました。このできごとは、いまにはじまったことではありません。日本列島の生い立ちを考えれば、当然のことです。我われはそういうところに生を受けていることを再認識してほしいと思っています。



2014年6月の女川町

そこから見えてくることは、人間同士がつまらない戦争ごっこをするのではなく、この地球の自然の営みのなかで、協力し合って生きていくことの重要さを再認識してほしいことです。

もう一つは震災後3年半が経過するも、復旧・復興が遅れていることを知っていただきたいです。つまり、いま南海トラフの地震・津波が想定されている地域があるにもかかわらず、被災地では防潮堤建設に財力と労力をかけていて、人間生活の基本である住宅建設の遅れで、住民は大変な生活を強いられている現実を知っていただきたい。

この大本に政治のゆがみがあること。つまり、福島原発と同じく、津波災害と復旧の遅れは人災であること。この認識をしていただきたいのです。

(事務局長 小林立雄)

かのギャラリーでも1週間ほど展示することを企画中です。

(事務局長 真下 均)

岐阜

**「北東アジアにおける北朝鮮」
講演会**



9月6日、岐阜駅構内のハートフルG(岐阜市生涯学習施設)にて、核・ミサイル問題などで周辺国から孤立を深めながらも、拉致問題では一定の譲歩も見せはじめた北朝鮮の実情をまなぶ講演会を実施しました。東アジアに平和の共同体をつくるための一連の学習会、シンポジウムなどのとりくみの手はじめに企画したものです。

講師に招いたのは、経済学調査のために北朝鮮を2度訪問した慶応大学経済学部教授の大西広先生です。専門の中国経済との関係など周辺国との関係から、北朝鮮経済改革の進行状況と実態など2時間におよぶ熱気あふれる講演会となりました。

日中友好協会との共催で、愛知県や静岡のAALAにも案内をしてもらった効果もあり、用意した30人の席が不足する会場いっぱい36人の参加者がつめかけ、北朝鮮情勢への関心の高さがうかがえました。大西先生を囲んでの懇親会にも11人が参加し、中国や北朝鮮の情勢の話はつきませんでした。

当日配布した申込書で翌日1人会員が増えました。12月7日には中部ブロックでASEANおよびTACの学習・講演会を計画しており、成功への足がかりがつかめた講演会となりました。

(事務局長 椋木昭夫)

赤旗まつりに
出店

各国外交官との交流のひろば開設

今回も日本 AALA は、模擬店のテントを出します。赤旗まつりに参加されるみなさん、ぜひお立ち寄りください。

全国の AALA 会員のみなさんの交流の場にしましょう。

また、各国の駐日大使をお招きし、大使や大使館のみなさんと交流できる場をつくりたい。楽しみにしてください。



○日時
11月1日(土)～3日(月)
○場所
東京都江東区 夢の島公園
○時間
午前9時開場

宣伝・販売します

- *オスパールコーヒー (ホットコーヒー、アイスコーヒー、コーヒー豆、粉)
- *ベネズエラ・チョコレート
- *ラム酒、ダイキリ (ラム酒のカクテル)
- *ブックレット「知りたかったアセアン」
- *日本軍「慰安婦」の DVD 「いのちの証言」など

…お店でのお手伝いの要員を募集しています。ご協力を! …

わたしと

65



AALA

長崎県 AALA

吉岡 賢

微力だが無力ではない

一昨年暮れだったか、代表理事の小松崎榮さんと四ツ谷光子さんが長崎に来られ、長崎高退教の事務所で加入をすすめられたのが加入のきっかけです。それまでは AALA という名前は聞いたことが

ありましたが、具体的にどういう活動をしている組織なのかは知らず、もちろん加入することも考えていませんでした。

今春になって、ASEAN 訪問が企画されていることを知り、早速参加を申し込みました。東南アジアにはこれまでベトナム以外には旅行したことがなかったことと、北東アジア平和協力構想が提案されているなかで、そのモデルともされている ASEAN を実際に見てみたいとの思いで参加しました。

この訪問は期待にたがわず、冷戦時代以来の歴史的条件と、大国のはざままで生き抜いてきた東南アジア諸国民の知恵の結晶として

ASEAN があるということが理解できました。そしてこの方向こそ北東アジアの将来があることも実感できました。本当に意義ある旅行で AALA に感謝です。

私はアフリカやラテンアメリカに関してはほとんど知識を持っていません。情報としても、時間的・空間的にも世界が狭くなっているいま、そして自衛隊が地球の裏側までも出動する可能性が出てきたいま、AALA を通じた諸国民との連帯が求められていると思います。日本の西の端で生きている私ですが、「微力だが無力ではない」をモットーにしてできることをやりながら日々を過ごしています。

編集・発行

日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

JAPAN ASIA AFRICA LATIN AMERICA
SOLIDARITY COMMITTEE



住所 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-11-7 第33 宮庭ビル 4階
電話 : 03 (5363) 3470 HomePage <http://www.japan-aala.org/>
FAX : 03 (3357) 6255 E-mail : info@japan-aala.org
振替 00110-6-72434 毎月1回1日発行1部150円(送料60円)